

導入事例 標的型攻撃メール訓練サービス

メール訓練でセキュリティリスクを可視化!

教育を通じて継続的に改善できる体制へ

製造業において、標的型メール訓練サービスの導入により、ものづくりを支える情報セキュリティ意識向上と、継続的な改善サイクルの確立を実現した事例をご紹介します。

製造現場から品質保証・生産管理など各部門でITリテラシーのばらつきがあり、個人の判断に依存した対応が課題となっていました。そこで『標的型メール訓練サービス』を導入し、訓練結果の可視化によりリスク実態を把握。全社的なセキュリティ対策のリテラシー標準化を進め、継続的な改善活動の定着を実現しました。

取材協力

情報システム部 部長 堀田 良人 様
柳谷 隆 様

導入事例
完全版を見る



株式会社白山様 (所在地: 石川県金沢市)

光ファイバー用コネクタの開発・製造を手掛ける通信インフラ関連メーカー。

全国に7拠点を展開し、高品質かつ高精度な製品の提供を通じて、通信ネットワークの安定運用を支えています。製品開発から製造・品質管理まで一貫した体制を構築し、次世代通信を見据えた技術開発にも積極的に取り組んでいます。

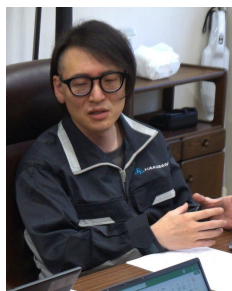
課題

- ・個人の判断に左右されないメールセキュリティ対策の強化
- ・訓練/教育/改善を継続的に回せる運用

効果

- ・不審メールの判断ポイント整理により対応のばらつき改善へ
- ・メール開封率30%でリスク実態を把握! リスク対策の方向性が明確に

を実施した際は、結果把握にとどまり、分析や教育、改善までつなげられませんでした。訓練後の教育は原因の整理や対策の方向性が明確にならないほか、社員による自主学習が中心で定着しにくく、訓練結果を次の対策や教育に活かしていない状況に。結果、個人の判断に依存した状態のまま、セキュリティレベルを継続的に高める運用を実現できていませんでした。



採用の決め手を教えてください

訓練結果をもとに、課題の分析から教育、改善施策まで一体で取り組める点です。また、訓練の進め方や内容について専門SEと相談しながら進められる環境が整っており、自社だけで抱え込まずに進められる点も安心材料でした。

効果はいかがですか?

不審メールの判断基準の明確化と内部リスクの可視化が進み、訓練・教育・改善のサイクルを回す運用基盤が整いました。

フォロー講習会では、メールを開封・クリックしてしまった社員を対象に、HCSの

専門SEが講師となり、実際の訓練内容をもとに、標的型メールの見分け方を具体的に説明してもらいました。差出人やドメインの確認方法、警告表示の見方などを実際の画面を使って解説してもらうことで、「開封する前にメールのどこを確認すべきか」という基準が明確に。これまで個人の感覚に依存していた不審メールへの対応も、共通の基準で判断できる状態に近づいています。

また、訓練結果から開封率約30%という実態を改めて認識でき、リスクの傾向や注意すべきポイントを把握。実施して終わりではなく、次の施策につなげられるようになり、定着の効果を実感しています。

今後の取り組みや展望を教えてください

メールを起点としたセキュリティリスクの低減に向け、訓練と教育を継続的に実施していく方針です。技術対策と人的対策の両面から運用を強化し、継続的にセキュリティレベルを高めていくことで、より安全なIT環境の実現を目指します。

一検討のきっかけを教えてください

メール訓練を単発で終わらせず、教育や改善までつなげる必要性を感じ、サービス見直しを検討していました。

一どのような課題をお持ちでしたか?

全社員にメール環境を整備する中、ITリテラシーのばらつきにより不審メールへの対応が個人の判断に依存している点が課題でした。特に、業務に関連した内容や社内手続きなどを装ったメールは見分けが難しく、「サイバー攻撃の危険性は認識しているが、不審メールの見分け方が分からない」といった声も多い状況。年々巧妙化するサイバー攻撃に対して、適切な対応が難しい場面が見られました。

また、過去に他社サービスでメール訓練



新サービスリリース!

無理なく、段階的に導入できるセキュリティ対策

まもる365

こんなお悩みはありませんか?

- ✓ 社員のセキュリティ意識にばらつきがある。巧妙な攻撃メールを社員が開かないか不安だ。
- ✓ 専任の担当者がいない。緊急時の対応遅れに不安がある。
- ✓ バックアップの管理や運用が負担になっている。

サイバー攻撃が巧妙化する中で、従来の対策だけでは不十分なケースが増えてきました。一つの対策に頼るのではなく、複数の観点からセキュリティを見直すことが求められています。さらに今後は、政府主導の「セキュリティ対策評価制度 (SCS 評価制度)」の導入も検討されており、自社の対応状況が客観的に評価される時代へと変化しています。評価結果によっては取引に影響する可能性もあり、対策の重要性はますます高まっています。

こうした状況を踏まえ、弊社では「まもる365」の提供を開始しました。複数の対策をワンストップで提供し、段階的に対策レベルを高められるセキュリティサービスです。セキュリティ対策に関するご相談は、ぜひ弊社営業までお問い合わせください。

HCSのよこがお

金融ビジネス本部
金融システム部あやま えいじ
青山 瑛次 さん

Q. 業務内容を教えてください。

金融機関向けパッケージシステムのSEとして全国のお客さま先へ訪問し、要件定義から導入・保守サポートまで一貫して携わっています。

債権書類管理の業務において、お客さまが感じている使いづらさや課題を把握し、より良い運用方法のご提案を

行っています。ご要望に対して、背景や目的を丁寧に確認することで、本質的な課題を捉えた改善案の提示も心がけています。多くの関係者との調整や全体を見据えた進行管理も計画的に進められるようになってきました。今後はお客さまの将来ニーズを見据えた提案ができるSEを目指すとして

編集後記

夏の日差しがいよいよ力強さを増し、冷たい飲み物や食べ物が一段とおいしく感じられる季節になってきました。蒸し暑さも増してくる時期ですので、こまめな水分補給など、体調管理には気をつけたいですね。

さて、本号では、製造業様における『標的型メール訓練サービス』の導入事例をご紹介します。多様な部門でITリテラシーに差がある中、不審メールへの対応が個人の判断に依存している企業は少なくありません。今回の事例では、訓練結果の可視化とフォロー教育により判断基準を明確化。さらに、訓練を一度きりで終わらせず、改善につなげる運用を実現されています。自社の対策に少しでも不安を感じている方は、ぜひ一度ご相談ください!(うえずぎ)

巧妙化するサイバー攻撃。
その変化に追いついていますか?

6つの観点で対策の見直しを。

貴社の課題に合わせてセキュリティ対策をご提案します!

- 1 パソコンガード
AI技術で未知の脅威やランサムウェアから端末を守ります
- 2 みまもりガード
24時間365日、専門家が監視・駆除/修復対応します
- 3 入口ガード
ネットワークの入口で不正アクセスを防ぎます
- 4 スпамガード
迷惑メールや標的型攻撃をブロックします
- 5 バックアップガード
データのバックアップと復旧を支援します
- 6 メール訓練
社員のセキュリティ意識を高めるため“うっかり”に気づかせ、予防します

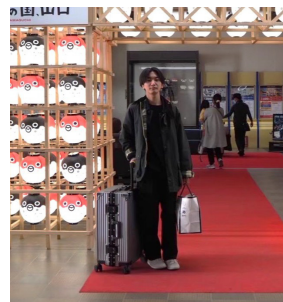
まもる365は、

経産省の「セキュリティ対策評価制度」に向けた
対策強化として有効です

取引先からの信頼確保や、ビジネス機会の損失リスク低減にも繋がります。

もに、後輩をサポートできる存在になりたいです。

Q. 趣味を教えてください。



家族や同期といっしょに好きなアーティストのライブに行くことです。生演奏や生の歌声を直接感じられるのが魅力で、好きな曲が演奏される瞬間は特に嬉しく、日常を忘れて楽しめる大切な時間になっています。9月のライブ参戦が今から楽しみです。

皆さまのご意見をお聞かせください

より役立つ情報掲載のため、皆さまの「気になる」「知りたい」コト、掲載記事のご感想などをぜひお聞かせください。
『HCS NewsLetter ご意見箱』への投稿はこちら→



全カパートナー



北陸コンピュータ・サービス株式会社

NewsLetter 編集室

TEL: (076)495-9824 HP: <https://www.hcs.co.jp/>